

—編集後記—

「なってみて初めてわかる親の気持ち」を地で行くような編集作業でした。安易な気持ちで引き受けた編集委員の業務でしたが、学会誌を世に送り出すというのは、論文執筆者、読者、そして陰で支える編集者の三位一体の成果であることを改めて実感させられました。振り返れば、中途半端な論文を投稿して読者のみならず編集委員の皆様にもご迷惑をおかけしてきた我が身を省みて赤面の思いです。

さて、特に公設試の研究者や技術者にとって、成果すなわち現場技術の出難い土壤物理分野の研究は、ますます持つて敬遠される傾向にあり、論文投稿もジリ貧なのではないでしょうか。

私も、農家を相手に土壤の特徴について話をする機会を持ちますが、「では、その土をどのようにすれば、もっと良くなるんだい」という問いかけに窮する場面が度々あります。莫大な資金の投入を必要とするような改良は現実的ではなく、かといって、「その土壤が持つ能力はその程度なのだから、それで満足して下さい」、と内心

では思いつつも、そうは言えない我身が少々情けなくもあるわけです。

有機、無機を問わず施肥技術の進歩は、土壤をしてより良い養分供給の場へと変えてきました。その勢いで土壤研究者はより良い物質循環の場として土壤を捉え、そのための管理対策を示そうとしています。

このように、現象の理解の先には、より高度な利用法、という大きな課題が待ち構えており、生産性を安定化あるいは向上させるという大前提の下に、「じゃあ、どうしたら良いのか？」の答えを導かねばなりません。

本誌第114号の編集後記で、農環研の江口氏が本誌の過去の設立目的等を紐解き、「ヘテロな集団を構成することそのものがこの小さな学会の設立目的であり、今も一番の存在意義と考えてみる」と書かれています。このことに心を強くし、在野の技術者も現場の中でつかんだ現象とデータを基に改善方策をひねり出し、広く発表の場を開いている本誌を通じて世に問うていくこともまた、学会の駆動力となり得るのであると思っています。

竹内晴信（編集委員）

土壤物理学会

事務局構成	会長	波多野 隆介	(北海道大学)
	副会長	志賀 弘行	((地独)北海道立総合研究機構)
	庶務幹事	柏木 淳一	(北海道大学)
	会計幹事	倉持 寛太	(北海道大学)
	編集幹事	岩田 幸良	((独)農業・食品産業技術総合研究機構)
	会計監査	井上 京	(北海道大学)
		中村 和正	((独)土木研究所)
		中辻 敏朗	((地独)北海道立総合研究機構)
		飯山 一平	(宇都宮大学)
		木村園子	(東京農工大学)
編集委員会	委員長	古賀 伸久	((独)農業・食品産業技術総合研究機構)
	委員	竹内 晴信	((地独)北海道立総合研究機構)
		永田 修	((独)農業・食品産業技術総合研究機構)
		丹羽 勝久	((株)ズコーシャ)
		花山 奨	(山形大学)
		早川 敦	(秋田県立大学)
		笛木 伸彦	((地独)北海道立総合研究機構)
		宮本 輝仁	((独)農業・食品産業技術総合研究機構)
		森 昭憲	((独)農業・食品産業技術総合研究機構)
		山本 忠男	(北海道大学)
	渡辺 晋生	(三重大学)	